

令和4年度 第2回下野市学校適正配置推進協議会 議事要旨

日 時 令和4年11月7日(月) 午後2時～午後3時5分

場 所 下野市役所3階 教育委員会室

出席委員	会 長	小野瀬 善行	副会長	大塩 宗里
	委 員	蓬田 みどり	委 員	設樂 孝男
	委 員	田熊 利光	委 員	倉井 充裕
	委 員	高野 典男	委 員	倉井 義郎
	委 員	高山 忠則	委 員	石田 陽一
	委 員	小谷野 晴夫	委 員	宮川 長一
	委 員	近藤 善昭		

欠 席 者 1 名

議 事

- (1) 地域説明会の報告について
- (2) 今後の方向性についての協議(意見交換)
- (3) 細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果案の作成について
- (4) 次回開催について

【議 事】

- (小野瀬会長) 議事(1) 地域説明会の報告について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 資料に基づき説明を行う。
- (小野瀬会長) 私も地域説明会に参加しましたし、ご参加の委員もいらっしやったと思います。この説明に対して、ご質問、ご意見、あるいはご参加の委員からこういうこともあったのではないかとというようなことがあれば、よろしくをお願いします。
- (蓬田委員) 分かりづらいと思うので補足すると、2ページの下から2番目、「子どもが3人通っているの」というところだが、この家庭は、1人が古山小学校、1人が細谷小学校、1人が上三川の幼稚園ということで、お母さん1人で送り迎えをしているということである。特に古山小学校と細谷小学校で下校時刻がかなり近いということで、送り迎えでちょっと学童を利用させてもらえるとありがたいなという話はあった。そういう事情での3人通っているという表現である。
- (委員A) 地域の人のか残してほしいという意見を聞いて、やはり残していくべきと強く思ったし、また、他の小学校で対応できなかった子どもが、小規模特認校の制度を利用して細谷小学校に通っているというのも事実である。4月から南河内小中学校がスタートし、まだ1年も経ってないが、先ほど不登校の子どもが増えているという話もあって、大きい学校に対応できない子どもたちは、少なからずいるのだろうなという気はしている。そういうことを考えた時に、やはり市内に1校ぐらいは、そういう子どもたちを受け入れる学校があってもいいのではないかなという思いがある。
- (小野瀬会長) 当日、教育委員会事務局の皆さんから、例えば、今後こういう入学者数で推移するのではないかということについての説明があったのですが、こちらにありますように、その数値的なものに限らず、実際に細谷小学校でこういう教育を受けられて、非常にありがたいとか、こういうことで助かっているとか、いわゆる生の声というものが多く聞かれたと思います。本協議会は、改めてそのような質的な検討・研究といたしますか、そういう声をきちっとまとめて次につなげていくことも、今後していかななくてはならないと思いました。そういう意味で貴重な会であり、こういったことを今後も継続すべきだと思います。私も検証のたびに参加していますが、今回そのような思いを強くしている状況です。

(小野瀬会長)

続きまして、議事(2)今後の方向性についての協議ということで、進めてまいりたいと思います。

先ほど、1回目の議事要旨の確認もいたしましたし、9月30日にあった地域説明会の主な意見ということで内容も確認いたしました。次にこの3年間の細谷小の取組についての検証、そして次回どのように検証の期間を設けていくか等も含めて、提言書をまとめていく段階になるわけですが、改めて第1回目の会議、あるいは地域説明会を踏まえて、この点はやはり確認したいなど、委員の皆様方からありましたら、ご発言をいただければと思います。先ほど委員Aから1つ提案をいただいたところですが、改めて、委員の皆様からこういう点について配慮して今後答申をまとめていくべきでないか、こういうことをもう1回確認すべきではないかということがありましたら、よろしく願いいたします。

(委員B)

協議会には細谷小学校のPTA会長として参加し、地域説明会のときも参加した。保護者に、地域説明会で意見を言いたい方はなるべく参加してくださいとお願いをしたところ、かなりの人数が集まった。代表して私が細谷小学校はいいところなので残してほしい。学校と地域の皆さんが仲良くやって、地域としても発展していくという意味で残してほしいということ。大きい学校に馴染めず、学区外から細谷小に来て、細谷小は本当にいい学校だという児童もいる。3年ごとに見直しをしなければならないことは理解しているが、せっかく今期から学童も再開し、いちご狩りなど特色のあることも行い、児童もいろいろなところから来ていることを踏まえ、私としては細谷小学校を存続してほしいと考えている。

(小野瀬会長)

お話にありましたとおり、本当に地域の方からもお話がありましたし、お子さんを通わせているという保護者からの声もあったりして、皆さんの細谷小に対する思いや熱意、そういうものが非常に感じられた場であったと私自身も思っています。委員Bがお話したように、地域の思い、もちろんそういう児童生徒指導的な面というものもあると思うのですが、特色ある教育というものを進めている状況もありまして、正に子どもたちにとって適正な、ある意味素晴らしい環境というものを、先生方が維持されているという状況も分かりましたので、その辺も共有していけたらと思います。

(委員C)

このような学校を残したほうが良いと思う。クラスに馴染めなかったり、人が大勢いると自分のことが表現できずにうまくいかなかったりで、細谷小学校に転校した児童がいたが、

中学校は元の学区に戻ってきた。同じ小学校に行っていなかったもので、当初は心配したが、お互い成長し、中学校ではうまく馴染んでいた。やはり、小学校時代に色々な活躍の場があったり、自信を持てるようになったことを考えると、このような学校、誰もがそこに合うというわけではないが、そういう場所を選べるというのはとてもいいことだと思う。もちろん、適正規模の人数等があることは理解している。

2点伺う。細谷小学校区に住んでいるが、小さい学校なので大きな学校で勉強させたいなど、そのような考えで学区外申請をする方はいるのか。また、細谷小学校の保護者は学校行事やPTA活動等、熱心に参加・協力されていると思うが、逆に遠くから来ている保護者の参加等、その辺の協調等はどうなのか。分かる範囲でお聞きしたい。

(学校教育課長)

細谷小から規模が大きい学校に行きたいという子はいる。実際、保護者の意見等聞くと、大きい学校で子どもに競争心を付けたいという考えである。逆に学区外から来る子どもについては、小さい学校で丁寧に見てもらいたいということから、細谷小を選んでいる。学区外申請等を行っている部署が学校教育課であるが、単純に住んでいる所で学校が決まるので、なぜその学校なのかという確認した意見をしっかり聞いた上で適切な配置を行うという、学校選択を保護者に確認した上で決定しているというのが、今の就学のスタイルである。

(委員C)

大きい学校、小さい学校それぞれメリットがあると思うので、保護者が自分の子をみて選べるというのが、とてもいいことだと思う。

(委員D)

私も細谷小学校を小規模特認校として残してもらいたい。今、話があったように、市内に選択して通える学校が1校ぐらいあったほうが良いし、制度利用者数も増えてきている。これから学校の活動を推進し、小規模特認校ならではのメリットや魅力を発信することによって、今後児童数が増加すると考えられるので、引き続き存続してもらいたい。

(小野瀬会長)

実際その制度を利用して進学している子どもの数も非常に増えている。それは他の事例ですと、なかなか難しい例も知っているのですが、本当に細谷小の場合は、こういう制度が機能しているというところも、評価すべきだと思います。

(委員B)

細谷小学校から他校に行ってしまったケースだが、同じ細谷小学区に私の同級生も住んでいて、子どもがいて、細谷小でなく他校に行ったので、なぜかと聞いたところ、学童保育がないからと言われてしまった。今はあるが、当時はなく、働

いていておじいちゃん、おばあちゃんはいるけれど、子どもを見てと言えないから、学童に入りたいけど細谷小はないから古山小に行くという話を聞いて、お願いして学童保育を開いている。そういった事情もあったということは、知っておいてほしい。

(小野瀬会長) 学童保育も設置して、それがどのように効いてくるか、どのような効果が生まれたのかということで、そういう検証期間もやはり必要かなというふうに伺いました。

(委員E) 小規模の学校と一般的な学校の経費、児童1人に対しての経費はどのくらいの比率か。全く差はないのか。

(学校教育課長) 学校予算の配当を学校教育課で行っているが、子ども1人当たりに対しての予算は、細谷小は多く執行している。1番少ない学校と比較すると3倍から4倍、全校平均額と比較すると2倍ぐらいである。

(委員A) 経費の内訳は、複式学級を解消するための先生の人件費なども含んで3倍なのか。その辺をはっきりしないと、経費だけの話だと詰まる。

(小野瀬会長) 委員Aの言うとおりに、算出の根拠、例えば数値が3倍ということが一人歩きすることは、我々の本意ではありません。こういう費用析出のための観点でこういう数値があるということを経済的に検討するというのも大事なかなと思います。

(学校教育課長) 基本的には人件費は入っていない。施設運営に関わる費用と学校の消耗品費、備品費等で、学校の運営に携わるものなので、教員とか人件費は入っていない。しかし、どの学校でも同じ教育ができる環境を整えるために予算を配分していることから、単純に人数割で比較してしまうと細谷小学校は多くなってしまう。学校予算としては適切に配分している。

(委員F) 資料の「地域説明会の主な意見」の中に、3年ごとに見直しがあるのが不安である、閉校してしまうのではないかと不安であるという意見があり、それに対して「年数について検討する」と答えているので、この辺のことについても、少し煮詰めておいたほうがいいと思う。また、「その辺の表現を考えてほしい」と、3年に1回、検証結果を見直すという文言ではなく、その表現を考えてほしいという要望が出ている。難しいと思うが、この辺も考えていく必要もあると思う。

ほかにも、下野市の中で細谷小学校が選べるというのは、大きな魅力であるという意見もあり、個人的にとっても良い意見だと思う。やはり子どもたちにとってはいいのだろうな。あなたはこの学校と指定されるのが普通だが、このように

「選べる学校があって、特色ある学校があるというのは市にとって魅力的」という意見もあるので、これは大切にしていきたいと思う。

あと、先ほど、全国的に不登校の児童生徒が多いという話があった。そのような中で、少し言いづらいが、細谷小学校において、もし不登校児童が増えたということになると大変なことになる。その辺の不登校に関することは何かあるか。

(蓬田委員)

回答する。

(小野瀬会長)

委員Fのほうから重要な論点の提起をいただきました。

議事(3)と関わるようになりますが、前回7月に、3年後検証するというので我々が集まり、このような会議を行っているところですが、3年ごとに延長するのかわからないのかというような、年数をどうするかとか、我々が出す提言についてどのようなタイトルをつけていくかということも大きな論点であり、我々が確認しておくべきところかなと思います。

その中で、先ほどの経費の話も関わるのですが、下野市として、どのような教育の中で、どのような選択肢を、どれくらいの経費を掛けて許容していくのかということ、ひょっとすると本会議の限度を超えてしまうかもしれないので、そこは総合教育会議や他の教育委員会の会議において、是非こういう選択肢を残すべきというようなことを要望として申し伝えることはできると思います。もちろん、経費の点も含めて議論があったということも伝えることも重要だろうと思います。さらに不登校児童をよく見てもらっているという声がある一方で、不登校、登校しぶりのような状況もあるということも、先ほど説明してもらいました。細谷小の状況がよく分かったかなと思います。

検証の期間についての意見や、議事(3)のところで、検証結果の作成についての議論となりますが、検証結果の作成に向け、こういうことを確認してほしいという意見があればと思いますが、いかがでしょうか。

(委員G)

細谷小学校の小規模特認校制度については、現在、利用者が18名で、毎年そのぐらいの人数になっているが、やはり選択肢の一つとして重要な制度だと思う。その一方で、少子高齢化社会ということもあるので、検証する機会というのは必要かなと思う。その上で年数については、現在の3年ということではなく、もう少し長い年数、5年とか6年というスパンで考えていくべきではないかと思う。

(委員A)

ただ今の5年又は6年ぐらいでいいのではという意見について、賛成である。3年に1度、見直しをすることを前提に動いていたが、校長先生の負担は大きかったと思う。コロナ禍の中、幼稚園に行ってアピールができない、運動会にもなかなか顔を出せないなど、大変な思いをしたと思う。やはり、校長先生1人に任せるということではなく、教育委員会はもちろん、下野市全体としてどのようなバックアップをするのか。周知をするとか、ホームページで紹介するとか、校長先生が行っていることと同じである。細谷小学校と同じことしかやっていないとしか感じない。細谷小学校にもっと子どもを増やしていくという方法を、もっと真剣に市全体で取り組んでもらいたい。地域説明会の際に、教育次長に相談をしたが、市内の子どもたちだけでなく、都内のほうで、授業等付いていけない子どもたちのために、里親制度等を利用して、細谷小学校という素晴らしい小学校を利用したらどうかとアピールできたらと思う。

(小野瀬会長)

細谷小単独で、そこはあまり手をつけずに3年ごとに検証しますというのも考えるべきところがあるのではないかなというような発言だったと思います。そういう意味で、行政的なバックアップをどのように図っていくかということも、例えば検証の際ポイントになるのか、そのようなことも我々協議会の中で議論をしながら報告をまとめることも大事なかなと思いました。

(委員H)

先ほどの3年に1度見直しという話で、こういう会議を持つということに関してであるが、少し視点を変えると、3年に1度見直しを行うということで、きちんとした対応をしていることが、市民の細谷小学校への理解を得ることにはつながると思われる。仮に、今後、細谷小学校を残していくというのであれば、検証を行っているということを出すことは、とても重要なポイントになるのではないかなと思う。それが3年か5年かというのは、皆さんの意見でまとめればいいと思う。私は3年というスパンは、市民に伝えるにはちょうどいいスパンなのかなと思う。

もう1点、最初に細谷小学校の校長先生の話にあったが、細谷小に行きたいと言っているものの、例えば経済的な問題や送迎の問題で、行くことができないという子どもたちの不平等感というものも、今後出てくるかもしれない。そこは少し注意をしながら進めたほうがいいのではないかなと感じた。

(小野瀬会長)

これも非常に大事な論点かなと思います。細谷小に通っている

方、当事者からすれば3年では困るといような意見もあるかと思いますが、一方で一般の市民からすれば、3年に1回、きちっと検証して、存続・継続ということでやっているのかといような、広報的な側面もあると思いますし、あるいは、下野市の中ではそういうことはないと思うのですが、例えば、私の専門であるアメリカですと、不平等感といいますか、何である学区だけとか、何である学校だけみたいところで、非常に論点になる場合があります。日本でも、特に都市部においてはそのようなこともあるかと思うのですが、同じように、「なぜ細谷小だけ」といような意見に対して、我々もきちっと説明できる用意しておく必要があると、大事な論点を提起いただいたと思います。

その点、例えば検証期間で量的な数値を方法的に上げるとか、質的な研究ということで、宇都宮大学や白鷗大学などと組んで、このような教育研究、成果が上がっていることを発表するのもありなのかなと思います。本協議会のような行政の委員会で行う場合も、このようなアピールが良いのかなと感じました。

(蓬田委員)

先ほどの経費の件に関わると思うが、本校は、前回1回目の会議で説明したが、本当にたくさんの体験活動を行っている。これは小規模特認校ならではの特色ある教育活動を行い、アピールをしているという、一つの目玉になっており、他の学校ではやっていないような、校外学習や全校合奏など、全校に関わるようなことを児童が縦割り班で行うとか、たくさん行っている。子どもたちが関わりを持ち、お互いに理解し合い、思いやりを学んだり、自主性を高めるという活動の中で、経費は非常に掛かるものである。例えば、全校合奏も1年生から6年生までの楽器を揃えるのが大変である。老朽化が進んで修理をしたり、新しい楽器を買うなど、全員が取り組むものを揃えるとなると、経費は掛かるものである。出掛けるにしてもバス代が掛かる。関わる農家は協力体制が非常に強いが、農園は広いが耕さなくてはならない。除草もしなければならぬ。小さい学校ならではのだが、協力体制に支えられている。一人一人に掛かる経費は、他の学校よりも何倍も掛かっている分、子ども一人一人の活動は大きい。先生方も本当によくやってくれている。

活動を行わなければ、小規模特認校の取組を止めてしまうことになるので、コロナ禍でもやり続け、また同じようなことではなく、工夫してもっとバージョンアップ、形を変えて、

先生方をお願いしなくてはならないが、先生方も前向きで、子どもたちのためならやりますということで、そこも大きな力だと思う。

3年に1度の名称の件だが、今年も説明会のチラシを配った途端に、保護者から学校がなくなるのですかという問い合わせはくる。前回の説明会のときに、意見がどんどん言えますよ、いいところも改善点も出すいい機会だから、是非、参加してくださいという話はしているが、今回は浸透しなかった。そこは検討してもらえればと思う。

(小野瀬会長)

本当に先生方のご苦勞がよくわかるご発言でした。議事(3)に関わるような発言が多く見られたと思いますが、方向性についてご意見をいただいたということで、改めて議事(3)に進んでよろしいでしょうか。

[委員同意]

(小野瀬会長)

方向性というものは、確認したものだと思います。既に重要な論点、大事な論点が出ていると思いますが、議事(3)細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果案の作成について、進めてまいりたいと思います。

委員からご発言がありましたとおり、検証の期間というものを3年にこだわらなくてもよいのではないかと、5年から6年というふうにし少し柔軟性を持たせてもいいのではないかと、あるいはその検証、成果についても何か考えていく必要があるのではないかと、他方で一般市民に対する説明責任もあるので、しっかりと説明をしていくためにはどのようにその配慮が必要なのかということも、必要な論点として見られるのではないかと、もちろん、細谷小の小規模特認校としての取組について、何か疑義があるとか、うまくいっていないとか、そういうことは一切出なかったということも合わせ、検証結果の作成に向かっていきます。本日の議論を踏まえて、事務局のほうで素案を作っていくことになると思います。

そして、議事(4)にも関わることですが、今後は、その素案を基に、改めてこの協議会でこの表現はどうか、このことはもう少し盛り込んでないと細谷小学校以外の保護者から了承が得られないのではないかと、そういうことを詰めていく作業になると思いますが、基本的には、今までの発言を受けて、事務局のほうで素案を作るということで、よろしいでしょうか。

[委員同意]

(小野瀬会長)

それでは事務局のほうで素案の作成をお願いします。ただ委員から、再検証の動きなどについて、3年後ではないという発言がありました。検証、特に論点はいろいろと残るところであります。検証期間について、改めて確認、議論を行ったという共有をしたいと思うのですが、委員から検証結果について、こういう理解でいいのか、こういう形でいいのかということなど、意見があれば確認をしたいと思います。いかがでしょうか。

先ほど委員Gから意見がありましたように、少子高齢化もあって、他の一般市民への説明責任等もありますので、期限を区切らないということはある程度あり得ないのかなと思います。継続審議というか、そういうところで話ができるといいのかなと思うのですが、委員Gから補足はありませんか。

(委員G)

期間については5年程度がいいのかなと思う。

(委員F)

何年がいいかはよく分からない。「検証結果」という言葉が硬すぎるかなという感じがする。例えば、情報収集の場として3年ごとに設けたいみたいなことになれば、いくらかニュアンスも違ってくると思う。そうなると、許されれば3年であろうと4年であろうと5年であろうと大丈夫かという気がする。

(委員I)

3年、5年というのは少し難しいと思うが、委員Hが言ったように、3年ぐらいで、きちっとやっていますよというのは、市民にも効果があるのかなと思った。また、蓬田委員が言っていたように、内容を廃止にするための議論ではなく、前向きに存続させるための意見交換の場ということで、3年間がいいのではないかと思った。

もう1つは、現場の先生方が小規模特認校になったために、他の学校よりも負担を強いられるとか、我慢をしなければならぬとか、やりがいなくなってくるというのでは、本末転倒で、子どもたちにも悪い影響があると思う。市のバックアップ体制をしっかりとってもらって、やりがいがあって、結果もちょうと残って、PRをしたときに、やっぱり細谷小は良いとなるようなPRの仕方を考えていくのがいいのではないかと思った。

(小野瀬会長)

3年ということであれば、3年というものをいじらずに、検討の表現と言うか、意味付けというものをしっかりとすることもあるのではないかというご意見でした。

(委員A)

確かに市民に理解をしてもらうため、3年ごとというのも1つの意見だと思うが、3年ごとに結果を出さなくてはならない中で検証するのは、校長先生にとって負担だと思う。全く検討しないということではなく、児童数の推移などの資料は積極的に公表をする。協議会は6年ごとに実施し、その半分の3年ごとに情報を公表するというのも1つの案だと思う。3年ごとに結果を出さなくてはならないという校長先生の負担は尋常でないと思う。

(小野瀬会長)

本検証に対して中間報告といいますか、そういう節目にそういう成果をあげていますということを、きちっと出せるところは、こういう検証という場を開かなくても、一般的な情報開示ということのできるのではないかと思います。その中で、委員の発言にもありましたように、半永久的に、全部の学校に入れることで、検証をしていかなくてはならないので、そこは本検証、そして協議会を開いて、報告書をまとめていく。期間中は、市民に対して全く説明をしないということではなく、そのように公表したり、先ほど申し上げたように、質的な研究として、教育委員会と大学が組んで明らかにしたりしていく。研究においては、先生方の負担、保護者の負担にならないような形でやっていくとか、いろいろな方法でアピールをしていくという方法もあるのではないかと話を伺いながら思いました。

3年ということについては、本検証にするのか、中間報告的なものにするのかも含めて、少し継続的な審議、逆に事務局としても、情報開示が必要かということも検証し、案を練ってもらい、それを元に、この協議会のほうで、意見を付けるとか、確認をするというようなことが良いのかなと思います。この場で6年にすると決めるのも難しいと思われませんが、本検証以外で、中間報告的なものであるとか、そういったものが可能かどうか、検討した案を出してもらって、継続審議と考えた次第ですが、いかがでしょうか。

(委員B)

最終的に判断する期間、5年か6年かというような話になっているが、私個人としては6年にしてほしい。理由は、小学校に入れば、6年間いるので、6年間はちゃんとあるんだという安心を、親としては欲しい。先ほど校長先生が言ったとおり、今回も適正配置をやりますと言われたときに、近所のおばあちゃんが、細谷小は無くなっちゃうのって聞きに来る。そんなことないですから、単に確認するだけでそんなことないですからと言うが、そうってしまう方が多いので、6年

間はあります、ただ3年ごとに検証しますというような感じが、私としてはいいかなと思う。

(小野瀬会長)

このような検証というスタイルを3年に一遍、我々は取ってきましたが、どのような情報を市民に出せば納得してもらえるのか。そして細谷小の校長先生を初め、先生方の負担を減らしつつ、本当に中長期の視点で、子どもたち一人ひとりをしっかり見ていく。その中で子どもたちの学びのアピールも含めて、どういう検証の期間、どういう検証の出し方があるか、意見をもらおう。そこを事務局が検討し、それを我々が議論するというような形に持っていければと思いますが、いかがでしょうか。

[委員同意]

(小野瀬会長)

次回の検証については、従来の3年ごとにということではなく、少し期間を長めにする。また、提案を基に、少し議論を重ねていくということによろしいでしょうか。

[委員同意]

(小野瀬会長)

では、そのような形で進めるということをお願いします。続いて、議事(4)次回開催について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

次回開催、及び今後のスケジュールについて、説明を行う。

(小野瀬会長)

今回は2月上旬に行い、その場で提言書について改めて確認をし、その後、下野市総合教育会議や説明会を経て、広報紙に出るというような流れになると思います。

2月上旬に集まるということは、承知しましたが、我々も検討できるように、素案を早めに出してもらいたい。よろしくをお願いします。

(事務局)

本日は長時間にわたり、ご意見等いただきありがとうございました。

先ほど説明した、2月上旬開催予定の会議については、1月下旬になる場合もあるので、早めに調整のうえ案内をする。本日の会議は閉会とする。